

# 働く価値観は志望動機に影響を与えるか

渡辺若菜・伊藤俊也（立命館アジア太平洋大学）

【キーワード】 志望動機, 働く価値観, キャリアプラン, 就職活動

## 1. はじめに

就職活動の面接において学生が最も難しいと考えるものが志望動機である。入社後どのように働きたいかが、明確でないため、志望動機に具体性を持たせられないからだ。筆者は具体性のある志望動機を書かせるためには、働く価値観を明確にすることが重要だと考えた。この働く価値観とは、キャリア選択において仕事に求める条件や実現したい目標である。留学生対象の授業「キャリア日本語」で自らの働く価値観を認識させ、志望動機を書かせた。

## 2. 志望動機作成までの流れ

「キャリア日本語」は、1コマ95分の授業が週に4回行われ、それが15週間続く。コースでは、1週目、8週目、14週目に受講生に対しキャリアプランを問い、回答を録音させ、文字化させた。また、11週目には「39の価値観」<sup>※1</sup>の中から3つの価値観を選ばせ、それらを選んだ理由を書かせた。そして、13週目に300字程度で志望動機を作成させた。図1は、学生A（台湾出身・女性）が答えたキャリアプランであり、図2は、学生Aの働く価値観とそれを選んだ理由、そして志望動機である。

キャリアプラン① 1週目	キャリアプラン② 8週目	キャリアプラン③ 14週目
卒業後は日本で就職するつもりです。まだ業界や企業は絞っていませんが、 <u>人の生活を豊かにする仕事</u> をしたいです。	卒業後は日本で就職するつもりです。第一志望の業界は今の段階は、商社、二番目は広告・マスコミ、三番目はコンサルティングになります。就活をしていく中、自分の就活としての軸は二つあります。一つ目は視野を広げることです。二つ目はアットホーム感の社風を持つ会社です。企業はまだ絞っていませんが、 <u>人の生活を豊かにする仕事</u> をしたいと思っています。	私は <u>インフラ整備を通して、国々の発展と人々の快適な暮らしに寄与</u> したいです。具体的には、貴社の海外建設事業部で各地域のニーズを的確に反映する提案営業をしたいです。3年以内に建設の基礎知識を身に付け、一人で成果を出します。6年以内に自分が向いている領域を見つけ、その領域でスペシャリストになります。そして10年後は子ども2人を育てながら、スペシャリストとしてスキルを磨き、成果を出し続けます。15年後は副業で複合カフェを開業します。

図1 指導の流れと学生Aの3回のキャリアプラン

<p>【学生Aの働く価値観とその理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常に知識、技術を磨き続ける仕事をしたい 「習うは一生」は、私が人生で貫きたい想いだから</li> <li>・世の中の役に立つ仕事をしたい 人は支え合って生きている、この世のために頑張らないといけないから</li> <li>・心から共感できる経営方針の会社で働きたい 会社は人生の半分以上を捧げるところで、それによって人生が左右されるから</li> </ul>	<p>【志望動機】</p> <p>私は貴社の海外建設事業でインフラ整備を通じて、<u>国々の発展と人々の快適な暮らしに寄与</u>したいです。母国・台湾のように発展途上国では経済成長率が高い一方、大都市であっても整備が遅れている国は少なくありません。土壌洗浄技術を通じて、ベトナム政府と社会問題に取り組んでいるように、<u>貴社は独自の技術を多く持ち、質の高い施工技術で国際社会に貢献しています</u>。私はアルバイト先の居酒屋で食材ロスを減らすため、旬の限定メニューを作成することにより売上を5%伸ばしました。このように各国の現状を分析し、貴社が持つ高い技術を国々の発展へ応用する仕事を通じ貴社へ貢献したく応募しました。(280字/建設会社)</p>
---	--

図2 学生Aの働く価値観と志望動機

### 3. 結果

学生 A は 1 回目と 2 回目のキャリアプランで、「日本で就職するつもりだ」「人の生活を豊かにする仕事がしたい」と述べているが、人々の生活を豊かにするためにどんな仕事をしたのかについて具体的に述べるまでに至っていない。その後「39 の価値観」について学び、自分の働く価値観を最もよく表すものの 1 つに「世の中の役に立つ仕事がしたい」を選んだ。A はその理由として、「現在の社会の豊かさは先人の活躍の結果であることに感謝し、自分も後世に残る仕事に関わることで社会に貢献したい」と述べている。これに続く 3 回目のキャリアプランでは建設会社への就職を念頭に置き、「インフラ整備を通して、国々の発展と人々の快適な暮らしに寄与したい」「海外建設事業部で各地域のニーズを的確に反映する提案営業をしたい」と言い、どんな仕事をして、何を達成したいのかを具体的に述べている。

この 3 回目のキャリアプランと並行して作成した志望動機で、A は「貴社の海外建設事業でインフラ整備を通じて、国々の発展と人々の快適な暮らしに寄与したい」と 3 回のキャリアプラン作成で発展させてきた考えを述べ、「ベトナム政府と取り組んでいる土壌洗浄技術のような独自の技術を多く持った貴社は、質の高い施工技術で国際社会に貢献している」と志望する会社が実際に展開する業務に触れ、「各国の現状を分析し、貴社が持つ高い技術を国々の発展へ応用する仕事を通じ貴社に貢献したい」と、どのように会社に貢献したいかを学生の視点ではなく、企業の側に視点を移し、述べることに成功している。

### 4. 考察

A は自身が持つ働く価値観について考えた後の 3 回目のキャリアプランで、自身の価値観が仕事に反映できると考える業界を選択し、それを具体的にどのように働いて実現していくかを述べることに成功している。ここから筆者は、自身の働く価値観を意識させ、それを自己のキャリアの中でどう実現したらいいかを考えさせることが、より現実的、具体的なキャリアプランを立てることに役立ったと考える。

キャリアプランは、将来どのような仕事をしたいか、それはなぜなのかを考えるという点で、その会社になぜ入りたいか、入社後何をしたいかを述べる必要がある志望動機とつながる。したがって、働く価値観を反映したキャリアプランを基に作成された志望動機は、採用側から見て、志願者が企業や仕事に何を求めているか、どんな基準でその企業を志望したのかが理解しやすい。また、キャリアプランがより具体的であれば、志望動機もより具体的に表すことが容易になる。これが自身の働く価値観をしっかりと考え、把握することが志望動機作成に与える利点である。

今回、A という一学生が書いたキャリアプランと志望動機の分析を通して、働く価値観を学生に考えさせることが、より良い志望動機の作成に役立つのではないかと考えることになった。今後はさらに調査数を増やし、働く価値観を意識することが志望動機作成にどのように影響を与えるかについて分析、考察を進めたい。

注 1: 株式会社リアセックが開発した自己分析カードのひとつ。働く目的についての 39 の文が書かれている。会社選びの軸を考えるカードソートツールである。